

「こんな」の意味・用法に関する一考察

近 悠 美

1. はじめに

「こんな」類¹は後ろにある名詞を修飾し、その名詞の内容・程度・性質などを表す指示詞である。特に「こんな」のようなコ系列は話し手のみが知っているときに使われることから、話し手と聞き手の両者の関わりが必要なソ系列、ア系列とは異なった特徴を持っている。そこで、本稿では「こんな」のみを調査対象とし、「こんな」の意味・用法について考察することとした。

まず、「こんな」が出現している用例は(1)のとおりである。なお、本稿の用例はすべてBCCWJの『中納言』(以下、「中納言」とする)から収集したものである。

- (1) 入社早々、(中略) 当時アメリカにいた知人から突然、こんな電話が入ったのだ。「こちらではいま、ビッグニュースが流れている。どうやら遺伝子を一気に百万倍に増やせる技術が開発されたいらしい。すぐ、行ってみたらどうだ」² (中納言)

(1)の係り先は「電話」である。(1)は「こんな電話」が話の内容を表している。そして「こんな」の直後は名詞である。

次に(2)をご覧いただきたい。

- (2) 空爆に続く空爆。愛すべき完璧な夜。慣れることは不可能だ。こんな凄まじい音に日々さらされている人びとが(中略)発音障害に陥ることは、明らかだ」(中納言)

1 「こんな」類とは、「こんな」「そんな」「あんな」を合わせたもののことである。
2 中納言から収集した用例について、「こんな」「この」の二重下線および「こんな」の係り先の囲み線は、すべて筆者によるものである。

(2)

(2) の係り先は「凄まじい音」である。(2) は「こんな凄まじい音」が空爆の音の程度を表している。なお、(2) では「こんな」と「音」の間に「凄まじい」という形容詞が挟まれている。

中納言から「こんな」の用例を収集し調査した結果、以下のことが明らかとなった。

- ① 「こんな」の係り先が名詞の場合は「こと／事」が多い。
- ② 「この」と比べると、「こんな」は「こんな」と名詞の間に形容詞を挟むことが多い。
- ③ 用例の(2)のように「こんな」と名詞の間に形容詞を挟む場合は「こんな」を「こんなに」に置き換えることが可能な場合があるが、その要因を「こんなに」の「に」の省略と考えると不自然な場合がある。

本稿では中納言から収集した用例をもとに、「この」との比較をとおして「こんな」の係り先の特徴を明らかにする。

本稿の構成は以下のとおりである。

2. では先行研究を概観する。2. 1. では「こんな」類と「この」類³に関する先行研究を概観し、2. 2. では「こんな」と「この」の類似性に関する先行研究を概観する。そして、2. 3. では先行研究の問題点を述べる。3. では本稿における調査対象と調査方法を説明する。次の4. では「こんな」と「この」の係り先について述べる。4. 1. では係り先の集計結果について述べ、4. 2. と4. 3. では係り先の特徴について考察する。そして、5. で本稿のまとめを述べる。

2. 先行研究

2. 1 と 2. 2 では先行研究を概観し、2. 3 では先行研究の問題点を述べる。

2. 1. 「こんな」類と「この」類の意味・用法に関する先行研究

ここでは、「こんな」類（以下、「こんな」とする）と「この」類（以下、「この」とする）の意味・用法に関する先行研究を概観する。

まず、金水・木村・田窪（1989）は「こんな」について以下のように述べている。

3 「この」類とは、「この」「その」「あの」を合わせたものことである。

- (a) 「こんな+名詞」で、「こ」によって指示される物事と同じ性質や特徴を持った名詞を表す。
- (b) 「こんな」は文中において、名詞を修飾する、助詞「の」を修飾する、「だ」「です」を付加し述語として使う、の三つの形に分類することができる。
- (c) 「こんな+名詞」は対象の性質や特徴について強い感情的な評価を表す場合が多い。
- (d) 「こんな+名詞」と否定の述語が組み合わせられると強い否定の気持ちが表される。

一方、「この」は現場の人やものを指す場合は「この」の後ろに名詞がくるとしている。

そして両者の違いについて、あるものを指して「この+名詞」と言った場合は特定のものに限定されるが、「こんな+名詞」の場合は特定のものには限定されないと述べている。

次に日本語記述文法研究会（2009）は、「こんな」は後ろの名詞を修飾して属性や程度などを指示し、「この」は後ろの名詞を修飾して、ものや人など様々な指示対象を指示すると述べている。

そして鈴木（2005）は「そんな+名詞」に見られる感情・評価的意味について、「そんな+名詞」では否定的な意味で使われることの方が多いとし、また、否定的とは客観的価値だけではなく話者の評価や感情をとらえている場合もあることを明らかにしている。

2.2. 「こんな」と「この」の類似性に関する先行研究

ここでは「こんな」と「この」の類似性に関する先行研究を概観する。

まず木村（1983）は「こんな」と「この」を後方照応の点から分析し、「こんな」は後方照応が可能であるが、「この」は後方照応が不可能であるとしている。しかし「この+名詞」は係助詞の「は」を伴うことによって、初めて使えることを明らかにしている。

次に、金水（1986）は連体修飾成分の機能を明らかにしており、「この」は限定⁴・情報付加⁵・存在化⁶・同定⁷の機能を持っているが、一方で、「こんな」

4 (i) 「今日、小学校のとき同じクラスだった坂本さんに会ったよ。」(作例)

5 (ii) これから何をしようかと考えた結果、前から行ってみたかったカフェへ行くことにした。(作例)

6 (iii) [目の前にあるパソコンを指して]「このパソコンをください。」(作例)

(4)

は限定・情報付加・同定の機能は持っているものの存在化の機能は持っていないことを明らかにしている。また、「こんな」は「この」と比べて形容詞類に近いとしているが、同定という機能があることと、「とても」「あまり」「全然」といった程度副詞による修飾ができない点が形容詞類とは異なるとしている。

2. 3. 先行研究の問題点

2. 1. では「こんな」と「この」の意味・用法について、2. 2. では「こんな」と「この」の比較に関する先行研究を概観した。しかし、係り先について言及しているものは管見の限りでは見当たらなかった。

そこで、本稿では係り先に着目し、「こんな」と「この」の係り先を分類して、係り先の種類によってどのような特徴があるのかを明らかにしていく。

3. 調査対象と調査方法

ここでは調査対象と調査方法について説明する。

本稿では中納言から用例を収集した。なお、中納言には検索対象が13ジャンルあるが、本稿では文体や内容に最も偏りが無いと思われる書籍⁸のみを調査対象とした。検索の結果、「こんな」は16,089件、「この」は187,770件であった。本稿では調査対象を300件とし、用例を収集する際には調査対象外の「こんな」と「この」を除きながら検索順に番号をつけていき、300件集めた。

なお、本稿における調査対象外の「こんな」「この」は以下の3点である。

- ① 「こんなふう」「このよう」のように、「こんな」「この」は「ふう」「よう」に係っているのではなく、「こんなふう」「このよう」で一語だと考えられる場合。
- ② 「この上なく」「そんな こんな」のように慣用句の一部となっている場合。
- ③ 「どこの自治体」「ぞっ こんなんで」のように、まったく関係のない語の連続によってできている場合。

7 (iv) [雑誌を読んでいて]「私も こんな スカート がほしい。」(作例)

同定は、コソアド言葉のように目の前の場面内の事物や記憶の中のある場面内の事物といった対象そのものであることを表す。

8 書籍は「出版・書籍」と「図書・書籍」に分かれているが、両者とも検索対象とした。

調査対象外①から③の「こんな」と「この」の各用例は以下のとおりである。

- (3) 「彼女はもともと美人だから」—ビジネスや結婚がうまくいっている人、あるいは美しく輝いている人を見て、こんなふうと言う人がいます。(中納言)
- (4) 大分前から私は、詩人はこの上なく聰明であり、…想像力は、諸能力のうちでもっとも科学的な能力であって、それは、想像力だけが、普遍的アナロジー、あるいは神秘宗教が照応と呼んでいるものを理解するからだと述べてきました。(中納言)
- (5) だけど、すごくおめでたくて、こっちがうんざりするほどクレイトンにぞっこんなんで、クレイトン以上に理解できないところがあるっていつも思ってるの」(中納言)

(3) は調査対象外①の用例である。「こんなふう」という語の一部であることから調査対象外とした。(4) は調査対象外②の用例である。「この上なく」という慣用句の一部であることから調査対象外とした。そして (5) は調査対象外③の用例である。「ぞっこん」と「なんで」というまったく関係のない語の連続からできたものであるため調査対象外とした。

4. 係り先の集計結果と係り先の特徴

4. では係り先について述べる。4. 1. では係り先の集計結果について述べ、4. 2. では係り先が名詞の場合について、4. 3. では係り先が連体修飾+名詞の場合について考察する。

4. 1. 係り先の集計結果

ここでは係り先の集計結果について述べる。

まず、表1は「こんな」と「この」の係り先の種類別出現数と出現の割合である。表1から、係り先が名詞の場合「こんな」は243件(81%)、「この」は279件(93%)であった。次に、連体修飾+名詞の場合「こんな」は55件(18%)、「この」は21件(7%)であった。そして、用言の場合「こんな」は2件(1%)、「この」は0件(0%)であった。

(6)

表1.「こんな」と「この」の係り先の種類別出現数と出現の割合

係り先	こんな	この
①名詞	243 (81%)	279 (93%)
②連体修飾+名詞	55 (18%)	21 (7%)
③用言	2 (1%)	0 (0%)
合計 (出現の割合)	300 (100%)	300 (100%)

表1より、両者はともに名詞が最も多く、特に「この」の場合は93%が名詞であった。「こんな」と「この」は名詞を修飾するという用法であることから、名詞が多いことは妥当である。一方、連体修飾+名詞では、「この」の出現の割合は7%にとどまったものの、「こんな」の出現の割合は18%であった。検定は行っていないが、「こんな」の係り先の18%は連体修飾+名詞であり、「この」よりも出現の割合が2倍以上高いことから、「こんな+連体修飾+名詞」の出現数は多いと言えるのではないだろうか。

また、用言の用例は以下のとおりである。

- (6) そう、お化けてこんな怖いのかなっていうのはまずその絵本。恐いっすよ、目がイッチャってるから (笑)。(中納言)
- (7) ずっとこうやっていたらええのに…。…ってアカンて。まだ太陽上ってるのに、なんで俺こんなしんみりしかかってんねん。(中納言)

(6) (7) は用言の直後に助動詞がきているものの、(6) の係り先は「恐い」、(7) の係り先は「しんみりしかかってイル」だと思われる。(6) (7) は「こんな」を「こんなに」に置き換えても不自然な文にはならない。おそらく(6) (7) の「こんな」は「こんなに」の「に」を省略したものだろう。

しかし、用例が2件のみであったことと、両者とも係り先が用言のみであるとまでは言い難いものであったことから、これ以上考察することはできなかった。係り先が用言の場合については今後の課題としたい。

4.2. 係り先が名詞の場合

ここでは係り先が名詞の場合について考察する。

まず、表2は係り先が名詞のものを出現数が多い方から順に並べたものである。なお、表2では2回以上出現している係り先をすべて挙げている。表2より、「こんな」の係り先が名詞の場合、最も多かったのは「こと/事」で75件(31%)

であった。2位以下は次のとおりである。2位は「ところ／所」で14件(6%)、3位は「とき／時」で12件(5%)、4位は「もの」で10件(4%)、5位は「の」で7件(3%)、6位は「話」で5件(2%)、7位は「時間」と「具合」で各3件(各1%)、そして9位は「もん」「場合」「言葉」「例」「とこ」「家」「店」「人」で各2件(各1%)であった。

表2. 係り先が名詞の場合の出現数と出現の割合

こんな			この		
順位	係り先	出現数と出現の割合	順位	係り先	出現数と出現の割合
1	こと／事	75 (31%)	1	とき／時	8 (3%)
2	ところ／所	14 (6%)	2	こと、本、日	6 (2%)
3	とき／時	12 (5%)	5	国、まま、際／さい、後／あと／のち	5 (2%)
4	もの	10 (4%)	9	家、ため	4 (1%)
5	の	7 (3%)	11	あたり、点、うち、世、種、店、仕事、章、ほか／他	3 (1%)
6	話	5 (2%)	20	作品、間／あいだ、子、人たち、時代、部分、場合、年、概念、一点、方法、地方、手、町	2 (1%)
7	時間、具合	3 (1%)			
9	もん、場合、言葉、例、とこ、家、店、人	2 (1%)			

一方、「この」の係り先が名詞の場合、最も多かったのは「とき／時」で8件(3%)であった。2位以下は次のとおりである。2位は「こと」「本」「日」で各6件(各2%)、5位は「国」「まま」「際／さい」「後／あと／のち」で各5件(各2%)、9位は「家」と「ため」で各4件(各1%)、11位は「あたり」「点」「うち」「世」「種」「店」「仕事」「章」「ほか／他」で各3件(各1%)、そして20位は「作品」「間／あいだ」「子」「人たち」「時代」「部分」「場合」「年」「概念」「一点」「方法」「地方」「手」「町」で各2件(各1%)であった。

表2から明らかになったことは以下のとおりである。

- (a) 「こんな」の係り先が「こと／事」の場合が名詞全体の約3割を占めている。
- (b) 「こんな」の係り先の5位までがすべて形式名詞である。

(8)

まず (a) について、「こんな」の係り先が名詞の場合は「こと／事」が最も多く、出現の割合が31%であった。なお、本稿の用例全300件の場合での「こと／事」の出現の割合は25%であった。

近(2014)においてBCCWJの『少納言』から「こういう」と「こうした」の用例を収集し係り先を調査した際も、「こういう」と「こうした」の係り先はともに「こと」が最も多かった。「こういう＋こと」は66件のうち出現数が8件、出現の割合が約12%、「こうした＋こと」は113件のうち出現数が4件、出現の割合が約4%であった。近(2014)では全用例を対象としているため本稿とは異なるものの、本稿の調査対象である300件の場合であっても「こんな＋こと」の出現の割合は25%であり、「こういう＋こと」「こうした＋こと」の出現の割合と比べて2倍以上高いことから、「こんな」は「こと」と結びつきやすいと言えるだろう。

また (b) について、「こんな」の係り先が名詞のものを集計した結果、上位5位までを形式名詞が占めていることが明らかとなった。「こんな」の修飾する名詞の程度や内容などを表すという用法と、係り先に形式名詞が多いことには、何か関係があるのではないだろうか。

4. 3. 係り先が連体修飾＋名詞の場合

ここでは係り先が連体修飾＋名詞の場合に着目して考察していく。表3は連体修飾の成分を品詞ごとに分けて集計したものである。

表3. 連体修飾の成分の品詞別出現数と出現の割合

連体修飾の成分	こんな	この
①名詞	9 (16%)	13 (62%)
②形容詞	33 (60%)	8 (38%)
③動詞	9 (16%)	0 (0%)
④連体詞	4 (7%)	0 (0%)
合計 (出現の割合)	55 (100%)	21 (100%)

表3より、連体修飾の成分が名詞の場合「こんな」は9件(16%)、「この」は13件(62%)であった。次に連体修飾の成分が形容詞の場合「こんな」は33件(60%)、「この」は8件(38%)であった。次に、連体修飾の成分が動詞の場合「こんな」は9件(16%)、「この」は0件(0%)であった。そして、連体修飾の成分が連体詞の場合「こんな」は4件(7%)、「この」は0件(0%)

であった。

表3から、連体修飾の成分が名詞、動詞、連体詞では「こんな」と「この」の出現数に大きな差は見られなかったが、形容詞の場合では「こんな」と「この」の出現数に差があることが分かった。

そこで、ここからは「こんな+形容詞+名詞」の用例全33件を見ていく。その用例は以下のとおりである。

- (8) でもこの事件後、すぐに日中戦争が始まってるわけだし、さらに四年後は真珠湾だ。当分それどころじゃなかったろうよ。警察も捜査に没頭できなかったんだと思う。だからこんな 面白い事件が迷宮入り同然になっているんだろうけどね」(中納言)
- (9) 「わたしたちはもうなんにもかなしいことないのです。わたしたちはこんな い・とこを旅して、おき神さまのとこへ行きます。そこならもうほんたうに明るくて匂がよくて立派な人たちでいっぱいです。(中納言)
- (10) これは間違いないかも、と考え、次いで確信したのよ」(中略)「こんな 恐ろしいこと」できるのは、あなたしかいないってこと」「違う!」短く叫んだ。(中納言)
- (11) 「まあ、とってもステキな絵ね、倉本さん」(中略)「そうですか? ふふ…」「ほんとうにステキ。こんな 美しい草原は見たことがないわ。優しくって、やわらかくって…」「いつも私、あこがれているんです。こんな所に行ってみたくって」(中納言)
- (12) 「こんばんは」ハンソンは運転手に声をかけた。「運転免許証を拝見できますか?」「何か問題でも、おまわりさん?」(中略)「問題は、こんな 狭い通り」に二重駐車してるってことです。(中納言)
- (13) 「ごめんなさいね、ご協力できなくて。私、いやなのよ」っておっしゃったので「いえ、どうぞ、お気になさらないで」って言ったら「こんな 白い髪の毛」をしていて、ほんとにみっともないでしょ、いやなのよ」って。(中納言)
- (14) この本を契機に、読者のみなさんから「いや、もっとこんな 素晴らしい湧水」があるよ」などという情報が出てくることを期待しています。(中納言)
- (15) しかし覚えていて下さい、秘密は守ると誓われたのだ。できることなら、忘れてほしい、お話ししたということさえも。そうだと、あなたのような浄らかなお口が、語ってはならぬ、こんな おぞましい出来事は。(中

(10)

納言)

- (16) 空爆に続く空爆。愛すべき完璧な夜。慣れることは不可能だ。こんな凄まじい音に日々さらされている人びとが(中略)発音障害に陥ることは、明らかなだ」(= (2))
- (17) 相思相愛の夫婦が運命のいたずらで相別れて、互いにありとあらゆる苦しみを経験する。そしてその末にこの青墓で、わしの家で、この夫婦同士は巡り合う。これは最高のメロドラマだ。その最高のメロドラマの結末が私の家で起こったのじゃ。こんなうれしいことはない。(中納言)
- (18) 真夜中、アウグストがふと目をさますと、町じゅうの鐘がもう一度やかましく鳴りひびいていました。(中略)アウグストは、どうしてこんな明るい光が、ぼくをとりまいているんだろうと思い、ストーブの戸から思いきって顔をだし、たしかめてみようと思いました。(中納言)
- (19) 大阪市内でこんな緑濃い公園があるとは知らなかった。(中納言)
- (20) 白1のツギなら、黒2と構えていても白のヒラキはなにごとぞ。こんなばか堅いヒラキはコリ型もいいところだ。(中納言)
- (21) 「…うまい」 果然と、ほとんどうっとりして僕は呟いた。(中略) こんなの初めてだ。こんなおいしいもの、食べたことがない。(中納言)
- (22) 昼まよく見ると、城の壁にはでこぼこが多く、つかまる手がかりや足がかりが、ないこともないからである。とはいっても、下は何百メートルともしれない谷底。万一手がすべればそれまでだ。(でも、こんな気味のわるいところで生きているより死んだほうがました。)(中納言)
- (23) 例えば酸性雨が降って環境がどんなに悪化しても、私たち家族はもっと環境に恵まれた町に移住して暮らすから、運動には参加しませんと言う人たちに、たくさん会おうわけです。それで彼女は困って、人間はみんなつながりあっているから、環境破壊からは誰も逃げられないのだということを教えるために、こんな面白い話をしているのです。(中納言)
- (24) 「今度はドジ踏むんじゃねえぞォ、コラ!」「はいッ」ドジを踏んだのは彼だけじゃあるまいと思ひながら、核は眼を閉じて目眩が去るのを待つ。(中略) おまけに、本来の目的は自分ではなく、あくまで人違いなのだ。こんなバカらしい話があるだろうか。(中納言)
- (25) まんだらけのバイトの多くは、自分の好きなマンガ、アニメ、ゲームのキャラクターの扮装(コスプレ)をしているので、こんな楽しい出来事もめじろおしだ。(中納言)
- (26) 結構な家に住み、たいそうな自動車を乗り回し、(中略)ゴルフに海外旅

行と贅沢三昧している議員が多い。どこからかカネが入ってきているのである。でなければ、こんな 厳しい経済状態で、そんなことができるわけがない。(中納言)

- (27)「最後の赤い細長いのはニンジンでしょう。つまり、シソのついたおにぎりと、フライパンでいためたニンジンがたべたいという意味ね。でも、そんなことなら、口でいえばいいのに、こんな へたくそな絵じゃ、ちゃんと通じないわよ。(中納言)
- (28) 華は、ピンクのハートを猫がかかえているカードを指さした。「そんなベタなんはあかん。こんな きれいなカード やったら、絵が気に入って、それだけで、華に興味を持ってくれるかもしれへん」(中納言)
- (29)「それでも、まだ存命している…。親父が面倒を見ているよ」「嘘よ」女は言った。「こんな 素敵な海を見ながら…待ちに待った船旅をしながら…ずいぶんと、まわりくどい、別れ話だわ」(中納言)
- (30) パーには生演奏のピアノなども入っていて、いかにも静かで、大人の雰囲気であった。(中略) オールド・パーは、吾一のキープボトルであった。「凄いなあ、こんな 高級なお店に、高級なボトルをキープして…」(中納言)
- (31) おまえ、どうやっておれの頭にはいつてきたんだよ。だいたい、そんな奇天烈な話、聞いたことないぞ。蚊トンボなんか人が人にとりついたってよ。なんで、こんな 奇妙なことが起きんだ？(中納言)
- (32) 勇ましく云ひ放して、木の下に来てちやんと立つ。家来一人、その頭の上に林檎を載せる。(中略) どうだい？こんな 無慈悲な、無残な事を、勝手にさせて如何なるものか！(中納言)
- (33)「クロロックさん!」「もう大丈夫だぞ」クロロックは、さっとマントを広げて見せたのだった。「邪魔するな!」と、小田切がナイフを持ち直す。「お前も片付けてやるぞ」「まともではないのだ」と、クロロックは言った。「小田切君が？まさかー」「まあ落ちつきなさい。こんな 単純な男、ちょっと暗示にかけるのは簡単なことだ」(中納言)
- (34) 阿部仲磨の歌とは段ちがひに拙く、到底比較にならない凡作である。(中略) いはゆるタダゴト歌の極端な代表である。何の必要あつてこんな 無意味な歌を作るのか。(中納言)
- (35) 十四歳で、大学を優等で卒業したあと、ハーバード大学の大学院へ進み、十八歳で早くも同大学の博士号を得たのである。相当な秀才にくらべても、進み方が十年は早い。なぜ、こんな 知的急成長が可能だったのだろうか？(中納言)

(12)

- (36) 権力を悪用するこんな「イヤな上司」なら自分が憲法、部下は絶対服従というコワモテ上司—たった一つの戦法は「面従腹背」だ! (中納言)
- (37) 昔は太かった部品がいつの間にか細くなっていると、部材の強度が上がってきたのだろうなどと設計の裏側までが見えてくる。こんな「些細なこと」でも何かのときに話題になり、仕事の相手により印象を残す結果になったこともあった。(中納言)
- (38) マリオがつかつかと前に出ると、彼女たちに向って、「コンプリメンテ・ア・マンマ (お母さんを賞めるよ。つまり、君たちのような美女を生んだお母さんは偉いよ)」とやった。こんな「味なせりふ」、日本の男じゃとても口をついて出てこないな。(中納言)
- (39) こうしてタケノコの皮をなめたのは、もうずいぶんむかしのことだなあと思った。いまの都会の子どもは、おそらくこんなことをたのしむことはないだろう。(中略) なにしろ、いまはいろいろまい菓子があふれるほどあるので、こんな「素朴な味」をよろこんだりしないのではなからうか。(中納言)
- (40) 法隆寺の管理下におかれ、年二回、法隆寺の僧侶によりご開扉され、各一週間、救世観音像は一般公開される。(中略) 日本に百貨店多しといえども、これだけ大がかりなシンボルゾーンを有する百貨店はない。水島廣雄は、どうしてこんな「立派な百貨店」を奈良に建てたのか? (中納言)

(8) の係り先は「面白い事件」、(9) は「いゝとこ」、(10) は「恐ろしいこと」、(11) は「美しい草原」、(12) は「狭い通り」、(13) は「白い髪の毛」、(14) は「素晴らしい湧水」、(15) は「おぞましい出来事」、(16) は「凄まじい音」、(17) は「うれしいこと」、(18) は「明るい光」、(19) は「緑濃い公園」、(20) は「ばか堅いヒラキ」、(21) は「おいしいもの」、(22) は「気味のわるいところ」、(23) は「面白い話」、(24) は「バカらしい話」、(25) は「楽しい出来事」、(26) は「厳しい経済状態」、(27) は「へたくそな絵」、(28) は「きれいなカード」、(29) は「素敵な海」、(30) は「高級なお店」、(31) は「奇妙なこと」、(32) は「無慈悲な、無残な事」、(33) は「単純な男」、(34) は「無意味な歌」、(35) は「知的急成長」、(36) は「『イヤな上司』」、(37) は「些細なこと」、(38) は「味なせりふ」、(39) は「素朴な味」、そして (40) の係り先は「立派な百貨店」である。

用例を見ていった結果、明らかとなったことは以下のとおりである。

- (a) 連体修飾の成分が形容詞の場合は「こんな」を「こんなに」に置き換えても不自然な文にはならない。
- (b) 「こんなに」の場合はその場に存在しているととらえられるが、「こんな」の場合は存在しているとも存在していないともとらえることが可能である。そのため、単に「こんなに」の「に」の省略であるとは言い切れない。
- (c) 「こんな」の場合は存在化という機能がないとされているが、「こんな」と名詞の間に連体修飾の成分があることによって、存在化の機能を持つことができるようになる。

(a) (b) について、まずは「こんな」を「こんなに」に置き換えると以下のようになる。

- (41)でもこの事件後、すぐに日中戦争が始まってるわけだし、さらに四年後は真珠湾だ。当分それどころじゃなかったろうよ。警察も捜査に没頭できなかったんだと思う。だからこんなに面白事件が迷宮入り同然になっているんだろうけどね」(8)を改変)
- (42)「最後の赤い細長いのはニンジンでしょう。つまり、シソのついたおにぎりと、フライパンでいためたニンジンがたべたいという意味ね。でも、そんなことなら、口でいえばいいのに、こんなにへたくそな絵じゃ、ちゃんと通じないわよ。(27)を改変)

(41)は(8)、(42)は(27)の用例の「こんな」を「こんなに」に置き換えたものである。両者とも置き換えても不自然な文とはならないが、「こんな」を「こんなに」に置き換えた場合は金水(1986)で述べられていた存在化の機能を持つようになる。置き換えても不自然にはならないが機能が変わってしまうことから、(41)(42)の「こんな」は「こんなに」の「に」の省略であるとは言い切れないと思われる。

また(c)について、金水(1986)は「こんな」には存在化の機能がないとしていた。しかし、「こんな」の係り先が連体修飾+名詞の場合は、存在化の機能を持つことができるとと思われる。その用例は以下のとおりである。

- (43)法隆寺の管理下におかれ、年二回、法隆寺の僧侶によりご開扉され、各一週間、救世観音像は一般公開される。(中略)日本に百貨店多しといえども、これだけ大がかりなシンボルゾーンを有する百貨店はない。水島

(14)

廣雄は、どうしてこんな百貨店を奈良に建てたのか？ ((40) を改変)

(43) のもとの係り先は「立派な百貨店」である。(43) のように係り先の「立派な」を除くと特定化されなくなり、それによって存在化の機能がなくなるように思われる。次に、もとの係り先の場合をご覧いただきたい。

(44) 法隆寺の管理下におかれ、年二回、法隆寺の僧侶によりご開扉され、各一週間、救世観音像は一般公開される。(中略) 日本に百貨店多しといえども、これだけ大がかりなシンボルゾーンを有する百貨店はない。水島廣雄は、どうしてこんな立派な百貨店を奈良に建てたのか？ (= (40))

(44) の係り先は「立派な百貨店」で、(43) の係り先に「立派な」が加えられたものである。(43) と比べると特定化されたようにも思われるが、特定化されていないと考えることも可能である。では、以下の場合はどうだろうか。

(45) 法隆寺の管理下におかれ、年二回、法隆寺の僧侶によりご開扉され、各一週間、救世観音像は一般公開される。(中略) 日本に百貨店多しといえども、これだけ大がかりなシンボルゾーンを有する百貨店はない。水島廣雄は、どうしてこんな日本一立派な百貨店を奈良に建てたのか？ ((44) を改変)

(45) は、もとの係り先に「日本一」を加えた例である。作例ではあるものの、(45) のように明らかに一つだけであると分かる連体修飾の場合は存在化の機能が現れるのではないだろうか。

なお、(c) については連体修飾の成分が名詞、動詞、連体詞の場合であっても言えると思われる。その用例は以下のとおりである。

(46) 穴のおくのほうから、チーン、チーン、とかねをたたくような音が、きこえてくるではないか。チーンチーン「なんだこりゃ、かねの音とちがうか」(中略)「なんだって、こんな地面の下のほうで、かねをたたいておるんじゃ」(中納言)

(47) 私の偏見かもしれませんが、ステイタスの高い方は華やかな人が好みの方が多いような気がします。そのような方が好みのお返事は結構です。いきなり、こんな怒った口調で書かれても困るんだけどな…。(中

納言)

(48) この水筒の麦茶は、毒入りだったのです。おそらく…これは…多味子がやったのです。いや…それに決っています…」と、植原は、機械的な調子で続けた。「この野郎!よくも…」突然、吹谷が植原にとびかかった。しかし、植原は抵抗もせず、二つ三つ、殴られたままだった。「植原さん。奥さんはなぜ…こんな『大それたこと』を…」二階堂は、ペンション経営者に訊いた。(中納言)

(46) は係り先が「地面の下のほう」で連体修飾の成分が名詞、(47) は係り先が「怒った口調」で連体修飾の成分が動詞、そして (48) は係り先が「大それたこと」で連体修飾の成分が連体詞である。(46) (47) (48) も存在化の機能を持っているととらえることも可能であると思われる。

以上、連体修飾の成分の品詞が何であれ、係り先が連体修飾+名詞になると存在化の機能を持つようになると言うことができるのではないだろうか。

そして、連体修飾の成分の形容詞をイ形容詞とナ形容詞⁹に分けてみたところ、表4のようになった。

表4.「形容詞+名詞」のイ形容詞とナ形容詞の出現数と出現の割合

係り先	こんな	この
①イ形容詞	19 (58%)	0 (0%)
②ナ形容詞	14 (42%)	8 (100%)
合計 (出現の割合)	33 (100%)	8 (100%)

表4より、「こんな」はイ形容詞が19件(58%)、ナ形容詞が14件(42%)、「この」はイ形容詞が0件(0%)、ナ形容詞が8件(100%)であった。この結果から、「こんな」はイ形容詞ともナ形容詞とも結びつくが、「この」はナ形容詞と結びつくものが8件あったものの、全体的に形容詞と結びつきにくい可能性があることが分かった。

9 イ形容詞は「美しい」「おいしい」といった学校文法等での「形容詞」に当たり、ナ形容詞は「にぎやか」「静か」といった学校文法等での「形容動詞」に当たる。

5. 終わりに

本稿では、「この」との比較をとおして「こんな」の係り先の特徴について考察した。考察の結果、明らかとなったことは以下のとおりである。

- (a) 「こんな」と「この」の係り先で最も多いのは名詞である。
- (b) 「こんな」の係り先が名詞の場合は「こと」が最も多く、名詞全体の約3割を占めている。
- (c) 「この」と比べて「こんな」の係り先は連体修飾+名詞が多い。
- (d) 「こんな+連体修飾+名詞」の場合、連体修飾の成分の品詞で最も多かったのは形容詞である。
- (e) 係り先が形容詞+名詞の場合は「こんなに」に置き換えても不自然な文にはならない。また、係り先が用言の場合も「こんなに」に置き換えても不自然な文にはならない。係り先が用言の場合は、「こんなに」の「に」の省略であると思われる。しかし形容詞+名詞の場合、「こんな」は存在化の機能を持つとも持たないともとらえられるが、「こんなに」は存在化の機能を持つともとらえられる。このように、「こんな」と「こんなに」では機能が異なってくるため、「こんな+形容詞+名詞」の「こんな」が単に「こんなに」の「に」の省略であるとは言い切れない。
- (f) 「こんな」の係り先が名詞や用言のみのときは存在化の機能を持たないが、連体修飾+名詞の場合は存在化の機能を持つともとらえることができるようになる。
- (g) 「こんな」と形容詞は結びつきやすいが、「この」と形容詞は結びつきにくい可能性がある。

最後に今後の課題を述べる。まずは、「こんな」の係り先と「こんな」と意味・用法が似ている「こういう」の係り先を比較することである。2点目は、「こんなに」が出現している用例を収集し、「こんな」と「こんなに」を比較することである。3点目は、係り先が用言のものを収集し、考察することである。そして4点目は、「こんな」「こういう」「こうした」「こういった」「この」といった連体詞の働きを持つコ系指示詞を比較し体系化することである。コ系指示詞の体系化ができた後、ソ系指示詞、ア系指示詞の意味・用法についても考察していきたい。

参考文献

- 木村英樹 (1983) 「「こんな」と「この」の文脈照応について」『日本語学』2 (11) 明治書院. pp.71-83
- 金水敏(1986)「連体修飾成分の機能」『松村明教授古稀記念 国語研究論集』明治書院. pp.602-624
- 金水敏・木村英樹・田窪行則 (1989) 『日本語文法セルフマスターシリーズ 4 指示詞』くろしお出版
- 近悠美 (2014) 「連体詞「こういう」「こうした」の使い分け」『日本文化学報 第63輯』韓国日本文化学会. pp.25-48
- 鈴木智美 (2005) 「指示詞「そんな」に見られる感情・評価的意味—その意味の実態を探る—」『東京外国語大学留学生日本語教育センター論集』(31) 東京外国語大学留学生日本語教育センター. pp.61-75
- 日本語記述文法研究会 (2009) 『現代日本語文法 7 第12部 談話 第13部 待遇表現』くろしお出版

コーパス

大学共同利用機関法人人間文化研究機構国立国語研究所、文部科学省科学研究費特定領域研究「日本語コーパス」プロジェクト『現代日本語書き言葉均衡コーパス』(BCCWJ : Balanced Corpus of Contemporary Written Japanese)
 <<http://chunagon.ninjal.ac.jp/>> <検索日：2015/10/13>

謝辞

本稿を執筆するにあたり、実践女子大学の福嶋健伸先生、平子達也先生から貴重なご助言をいただいた。記して感謝申し上げたい。

(こん ゆうみ・実践女子大学大学院 博士後期課程)